

平成16年4月28日

海外渡航者へのウエストナイル熱等の感染症予防啓発等
に関する通知の発出について

下記の通知を別添のとおり発出しましたので、お知らせします。

記

「海外渡航者へのウエストナイル熱等の感染症予防啓発等について」

健感発第 0428001 号
食安検発第 0428001 号
平成 16 年 4 月 28 日

各検疫所長 殿

健康局結核感染症課長
(公印省略)

食品安全部検疫所業務管理室長
(公印省略)

海外渡航者へのウエストナイル熱等の感染症予防啓発等について

大型連休をむかえ、海外に渡航する人が増えることが予想されることから、今般、別添 1 の海外渡航者向けの感染症啓発パンフレット「海外旅行チェックポイントーあなたの健康を守るためにー」を作成したので、海外渡航者向けの感染症予防のための啓発にご活用されたく送付します。

また、米国等で流行中のウエストナイル熱対策については、これまでも種々ご対応いただいているところですが、流行地におけるウエストナイル熱の感染予防については、個人が本病を知り媒介蚊の対策を行うことが最も有効であることから、別添 2 の啓発パンフレット「ウエストナイル熱を知っていますか？」もご活用の上、海外渡航者及び関係機関に対するウエストナイル熱対策の注意喚起につきよろしくご対応御願いたします。

さらに、米国 CDC が作成したウエストナイル熱対策の CD-ROM の日本語版を、現在、国立感染症研究所等の協力を得て作成中であり、これについても海外渡航者向けの啓発にご活用いただきたく、追って配布致します。

なお、現在のウエストナイル熱の主要発生国である米国が流行期をむかえることから、貴管内におけるウエストナイル熱の媒介蚊等の対策について、来航する航空機への媒介蚊対策の指導、航空機内及び空港等における媒介蚊のサーベイランス等、一層の徹底を図られるよう御願いたします。

出発前の注意点

海外には現在の日本ではほとんど発生しない病気が常在している国があります。

出発前に旅行プランに合わせた情報入手し、病気から自分の身を守る準備をしましょう。

●持病のチェック

旅行前には、自分の健康状態を確認しておきましょう。心臓病、腎臓病、糖尿病などで普段から薬が必要な方は、旅行にも必ず薬を持参してください。

●予防接種

海外旅行がきまったら、予防接種証明書などが必要な場合がありますので、予防接種機関や検疫所で接種するワクチンの種類や接種日程の相談をしてください。

検疫所では、あなたの予防接種の履歴を記録するノート(トラベルメイト)を無料で配布しております。

旅行中の注意点

●旅行目的に応じて気をつける病気

旅行先、滞在日数により注意する病気の種類も違ってきます。原野・森林が多い地域では、昆虫や動物から病気がうつる可能性も出てきます。なお、現地で受診する際には、添乗員、ホテル、旅行代理店や日本大使館・総領事館や、現地の公的機関に相談し、適切な医療機関を紹介してもらうのも一つの方法です。

帰国後の注意点

●検疫所で健康相談

検疫所では、健康相談を無料で行っております。旅行中や帰国時に体調をくずされて、心配な方は、ご相談下さい。

●帰宅後具合が悪くになったら

病気にかかってもすぐに症状が現われるとは限りません。帰国後、しばらくたってから熱や下痢などの症状が出る場合もありますので、具合が悪くになったら、速やかに医療機関を受診するか、検疫所に相談してください。その際には、必ず旅行先や滞在期間などを申し出てください。

海外旅行のチェックポイント

＝あなたの健康を守るために＝

厚生労働省 <http://www.mhlw.go.jp>

検疫所 <http://www.forth.go.jp>

海外旅行で気を付けたい感染症

●：感染する可能性があるので要注意

◎：動物と接触する場合要注意

	何から感染するのか	主な流行地域	滞 在 地 域			症 状	予 防 ・ 対 処 法
			都 市 部	地 方 町 村	森 林 原 野		
黄 熱	蚊(ネッタイシマカ等)に刺され感染	南アメリカ アフリカ		●日中	●日中	高熱で、発病、黄疸が出現。急激に重症化。致死率20%。	流行地域に行く場合には予防接種を受ける必要がある。蚊に刺されないようにする。
日本脳炎	蚊に刺され感染	ア ジ ア		●夜間	●夜間	発症はまれ。発症すると麻痺など、重篤な症状が起きることがある。	夜間に蚊に刺されないようにする。予防接種もある。
SARS (重症急性呼吸器 症候群)	患者との接触(主に飛沫)により感染	東アジア	●	●		急な発熱(38度以上)で始まり、咳、呼吸困難、悪寒、頭痛、筋肉痛。	流行地域に行く場合にはマスクを着用する。うがいや手洗いを励行する。
ウエストナイル熱	蚊(多種類)に刺され感染	北アメリカ	●	●	●	多くは無症状。発病は、蚊に刺されて2~6日後、突然の高熱、頭痛、筋肉痛。	戸外へ出るときは、できる限り肌の露出はさけ、また、蚊除け剤などを使用し、蚊に刺されないようにする。
高病原性 鳥インフルエンザ	病鳥との接触により感染	ベトナム タイ	●	●		突然の高熱、咳、肺炎、全身症状。	流行地域では、生きた鳥との接触は避ける。
狂 犬 病	犬、キツネ、猫、コウモリ等に咬まれ感染	世界各地	◎	◎	◎	発病すると麻痺を来し、100%死亡。	むやみに動物にさわらない。咬まれたら発病を防ぐため、現地の病院で予防接種を受ける。
コ レ ラ	生の魚介類・井戸水等から経口感染	ア ジ ア アフリカ	●	●		水様性下痢、嘔吐。	加熱が不十分な魚介類を食べることは避ける。生水は飲まないようにする。(ミネラルウォーター等の信頼のおけるものを飲む。)
マラリア	蚊(ハマダラカ)に刺され感染	熱帯地域		●夜間	●夜間	悪寒冷汗を伴う高熱で発病。周期的発熱。	流行地では蚊帳を使い防虫し、夜間の屋外活動を避ける。予防薬はあるが、薬剤に耐性のある場合があるので注意が必要。発熱がみられたら速やかに医療機関を受診。
デング熱	蚊(ネッタイシマカ、ヒトスジシマカ等)に刺され感染	熱帯地域	●日中	●日中	●日中	蚊に刺され5~6日後、突然の高熱、筋肉痛、関節痛。	蚊除け剤などを使用し、日中蚊に刺されないようにする。

ウエストナイル熱を 知っていますか？

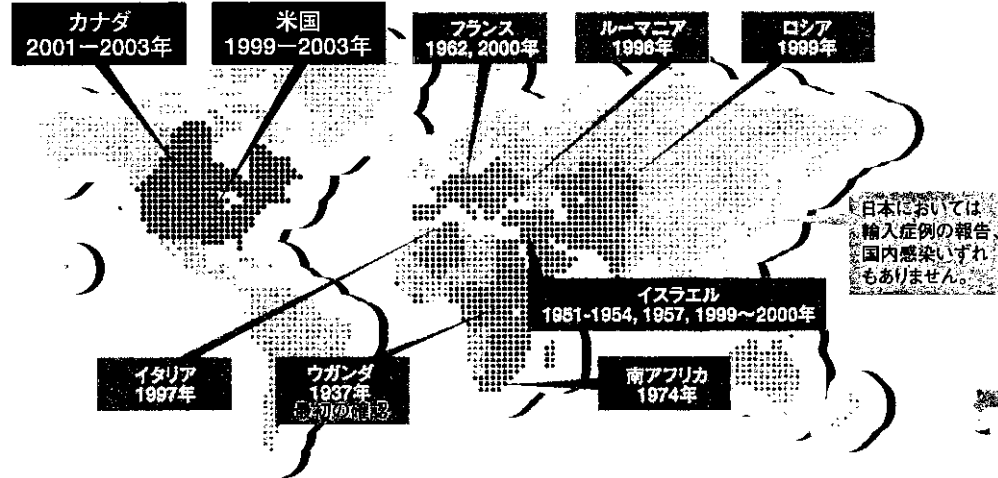


ウエストナイル熱って何だろう

現在、米国・カナダで流行中

1999年、米国のニューヨーク市周辺での流行が報告されたことから、大きな注目を集めるようになりました。その後本年まで毎年流行がおきており、様々な対策が行われています。なお、アフリカ、ヨーロッパ、西アジアなどでこれまでに患者発生が報告されています。近年の主な流行は以下のとおりです。

【過去の流行状況】



どんな症状？

- 多くの人は無症状か感冒の様な症状のみ（症状が出るのは約20%）
- 重症患者は感染者の約1%（主に高齢者）
- 今のところワクチンがないため、治療法は対症療法のみ

ウエストナイル熱は通常2~6日間の潜伏期の後、突然の発熱（39度以上）で発症します。3~6日間の発熱、頭痛、背部の痛み、筋肉痛、食欲不振などの症状があり、約半数で発疹が胸部、背、上肢にみられます。症状は通常1週間以内で回復しますが、その後倦怠感が残ることも多くあります。

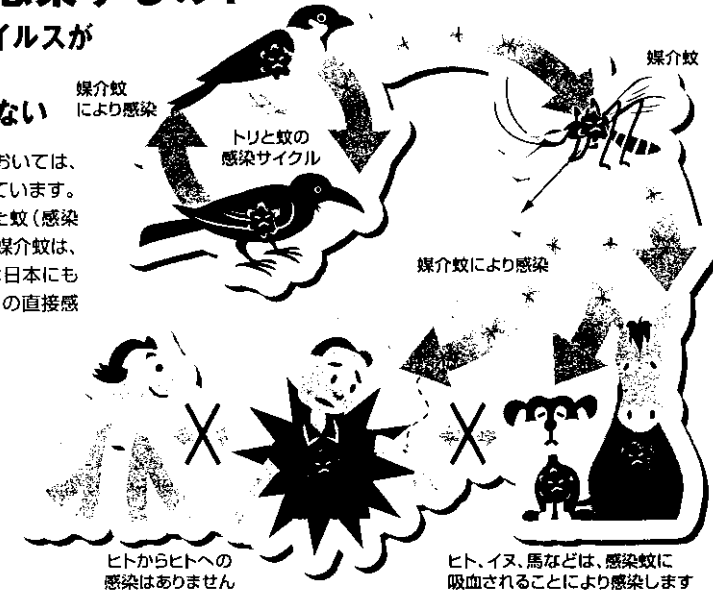


どうやって人に感染するの？

- 野鳥の体内で増えたウイルスが蚊を介してヒトに感染
- ヒトからヒトへの感染はない

ウエストナイルウイルスは自然界においては、野鳥と蚊の感染サイクルで維持されています。ヒトはウエストナイルウイルスを持った蚊（感染蚊）に刺されることにより感染します。媒介蚊は、イエカやヤブカなどで、これらの蚊は日本にも生息しています。通常、ヒトからヒトへの直接感染はありません。

【感染経路】



現在、ウエストナイル熱が流行している米国・カナダに旅行する時は特に注意しましょう

- 蚊に刺されないようにする。（蚊の活動期（夕方から夜明けまで）には屋外で過ごすことをなるべく避ける）
- 露出している皮膚への虫除け剤の使用
- 戸外へでるときは、できる限り長袖、長ズボンを身につける

ウエストナイルウイルスが蔓延しているところに住んでいる人は誰でも感染する危険性がありますが、特に高齢者の人は重症になりやすいといわれています。また、日本への入国時に症状などがある場合は検疫所にお申し出ください。

ウエストナイル熱の感染がご心配な方は・・・

まずかかりつけの医師などに相談してください。もし、高熱、激しい頭痛、意識障害、筋力低下などが出た時は急いで受診してください。

もっとウエストナイル熱を知りたい方に



- ・ ウエストナイル熱・脳炎Q&A (厚生労働省編)
<http://www.mhlw.go.jp/topics/2002/10/tp1023-1b.html>
- ・ ウエストナイル熱の診断・治療ガイドライン
<http://www.mhlw.go.jp/topics/2002/10/tp1023-1a.html>
- ・ 感染症の診断・治療ガイドラインの追補 (ウエストナイル熱)
<http://www.mhlw.go.jp/topics/2002/10/dl/tp1023-1c.pdf>
- ・ ウエストナイルウイルス (国立感染症研究所)
<http://www.nih.go.jp/vir1/NVL/WNVhomepage/WN.html>
- ・ ウエストナイルウイルス (日本ウイルス学会)
http://virus.bcasj.or.jp/WNV_top.htm
- ・ ホームページ「動物由来感染症を知っていますか?」
<http://www.forth.go.jp/mhlw/animal/>

米国・カナダに行く方に



- ・ 厚生労働省検疫所のホームページ(海外渡航者のための感染症情報)
<http://www.forth.go.jp/>
- ・ 米国疾病予防センター (CDC) のホームページ (West Nile Virus: 英文情報)
<http://www.cdc.gov/ncidod/dvbid/westnile/index.htm>
- ・ 米国の市民向け予防パンフレット (英文情報)
West Nile Virus Is A Risk You Can Do Something About With A Few Simple Steps.
http://www.cdc.gov/ncidod/dvbid/westnile/resources/WestNileInfoCard2003_small.pdf

厚生労働省の取り組みを知りたい方に



我が国でも次のような対策を行っています。

- 1 ウエストナイル熱についての知識の普及
一般の方向けのQ&Aや、専門家向けのガイドラインを作成・提供しています。
- 2 患者発生動向調査
国内での患者さんの発生を把握する体制が整備されています。
- 3 空港での対応強化
米国等への旅行者に情報提供し、帰国時の健康相談も行っています。
- 4 輸入鳥類の監視
米国等から鳥を輸入する者には、ウイルス侵入防止の衛生管理を求めています。
- 5 ウエストナイルウイルスの調査
ウイルスの侵入を早期発見できるように、死亡したカラス等の野鳥や、媒介蚊の調査体制を強化しています。

お問い合わせは最寄りの保健所へ

なお、このハンドブック作成には「人と動物の共通感染症研究会」
(<http://www.hdkkk.net/>)のご協力をいただきました。